

第二次小田原市子ども読書活動推進計画における施策の実施状況報告

1. 第二次小田原市子ども読書活動推進計画における事業の取組状況

(1) 家庭における子ども読書活動推進の取組

主な取組	<ul style="list-style-type: none"> ・子育て支援センターでの絵本の読み聞かせ会やおすすめの本を紹介するイベントを実施 ・子育て支援センターに絵本コーナーの設置 ・「こんにちは赤ちゃん事業」でのブックリスト配布
課題等	<ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルスへの感染予防で、利用人数やイベントの実施について制限を設けているため、コロナ禍での開催方法を工夫していく必要がある。

(2) 地域における子ども読書活動推進の取組

主な取組	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもの発達段階に応じた図書資料の充実を図り、発達段階ごとのブックリストを作成・配布 ・小中学生の体験学習受け入れ ・読書活動推進講演会の実施 ・調べる学習コンクール等の児童行事の開催 ・放課後児童クラブ等への配本の実施（自動車文庫）
課題等	<ul style="list-style-type: none"> ・（１）と同様に、体験学習や児童行事については、コロナ禍での開催方法を工夫していく必要がある。

(3) 学校・幼稚園・保育所における子ども読書活動推進の取組

主な取組	<ul style="list-style-type: none"> ・小中学校における朝の読書活動・読み聞かせ・ブックトークの実施 ・全ての小中学校に学校司書を週２日配置及び図書ボランティアの活用 ・公立幼稚園・公立保育園で絵本の読み聞かせの実施 ・公立保育園で地域の読み聞かせサークルによる読み聞かせの実施 ・公立保育園で「ライブラリー」を設置し、地域の保護者への貸出を実施
課題等	<ul style="list-style-type: none"> ・小中学生の読書率が減少しているため、読書への興味を持たせる工夫が必要である。 ・乳幼児の読書率は、読み聞かせをしている世帯も含めて増加しているので、今後も取組を継続する。

(4) 小田原ゆかりの文学を通じた子ども読書活動推進の取組

主な取組	<ul style="list-style-type: none"> ・小田原文学館特別展等の開催 ・小田原童謡大使によるコンサート等の童謡事業の実施 ・白秋童謡普及のためのパンフレットの作成・配布
課題等	・文学だけでなく、本市の文化資産全般に着目した読書推進の取組を検討する必要がある。

(5) 新たな図書施設の中での子ども読書活動推進の取組

主な取組	<ul style="list-style-type: none"> ・ホームページ・ツイッター等による積極的な情報発信の実施 ・隣接する子育て支援センターと連携したお話し会の実施 ・ティーンズ世代を対象とした展示・企画等の実施
課題等	・定期的な企画だけではなく、新しい企画も随時展開する必要がある。

2. 第二次小田原市子ども読書活動推進計画における数値目標の達成状況

項目		平成 27 年度	計画期間中の目標値	令和 3 年度
乳幼児のいる家庭での読書をしない子どもの割合		21. 8%	10%	9. 6%
児童書の年間貸出冊数		189, 829 冊	200, 000 冊	223, 899 冊
ティーンズ向け図書の年間貸出冊数		7, 645 冊	10, 000 冊	12, 697 冊
本を読む児童生徒の割合	小学生	93. 3%	98%	85. 5%
	中学生	89. 7%	95%	86. 8%
学校図書館図書標準を充足している小中学校の割合		55. 6%	80%	55. 6%
団体登録率	幼稚園・保育所	14%	60%	55%
	小中学校	75%	100%	91. 7%

※児童書、ティーンズ向け図書の貸出冊数は令和 4 年 2 月 28 日時点

※団体登録率：幼稚園・保育所は公立 11 園のうち 6 園。小中学校は公立 36 校のうち 33 校

(1) 乳幼児のいる家庭での読書をしない子どもの割合について

平成 27 年度と比較すると読書をしない子どもの割合は減少しており、目標値を達成している。なお、読み聞かせをしない保護者の割合も減少しているが、読書をしない子どもの割合ほど大きな減少にはなっていない。

(2) 児童書・ティーンズ向け図書の年間貸出冊数について

平成 27 年度と比較すると、ともに年間貸出冊数は増加しており、目標値を達成している。これは、令和 2 年度の東口図書館開館による利用増に加え、(1) の乳幼児への読書活動推進の取組や、小中学校における朝の読書活動・読み聞かせ・ブックトークの実施、学校司書の週 2 日配置、図書ボランティアの活用等、様々な取組が作用したものと思われる。

(3) 本を読む児童生徒の割合について

平成 27 年度と比較すると、小学生・中学生ともに本を読む児童生徒の割合は減少しており、目標値を下回っている。このことは、週に 1 日以上学校図書館や公共図書館を利用する小中学生の割合が減少していることから窺える。

(4) 学校図書館図書標準を充足している小中学校の割合について

半数以上の学校で蔵書は増加していたが、除籍等で蔵書を整理している学校もあり、結果として、平成 27 年度と同様の数値であった。

(5) 団体登録率について

平成 27 年度と比較すると、幼稚園・保育所と小中学校ともに登録率は増加しているが、目標値には達しなかった。

参考：子どもの読書活動に関するアンケート調査結果

調査項目		平成 19 年 度	平成 27 年 度	令和 3 年度
乳幼児がいる家庭 での読書の状況	読書をしない子どもの割合	10.8%	21.8%	9.6%
	読み聞かせをしない保護者の割合	14.0%	21.3%	19.0%
	読書をしない保護者の割合	37.0%	49.4%	50.2%
本を読む児童生徒の割合	小学生	88.5%	93.3%	85.5%
	中学生	83.5%	89.7%	86.8%
毎日または週に 1 日以上学校図書館を 利用する児童生徒の割合	小学生	32.3%	41.9%	31.2%
	中学生	13.6%	9.2%	8.0%
毎日または週に 1 日以上公立図書館を 利用する児童生徒の割合	小学生	10.3%	11.1%	9.6%
	中学生	2.6%	2.4%	1.8%